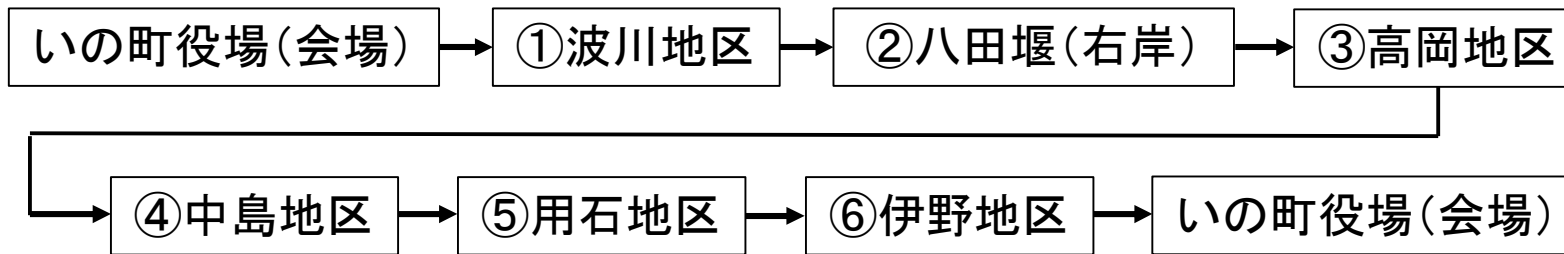


現地視察資料

令和5年11月30日

第18回 仁淀川流域学識者会議 現地視察位置図

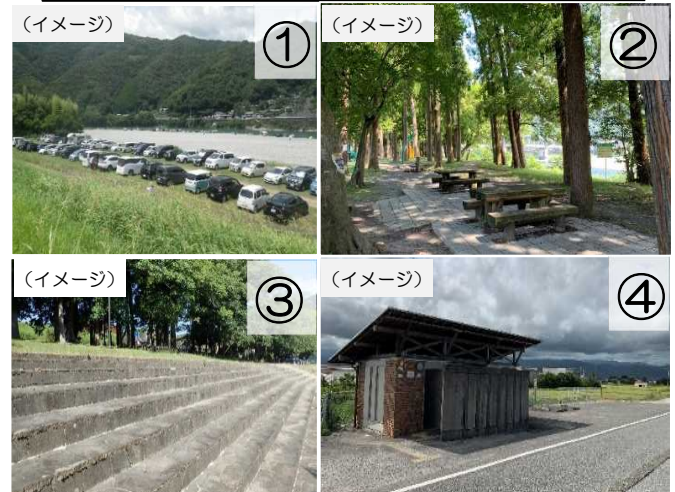
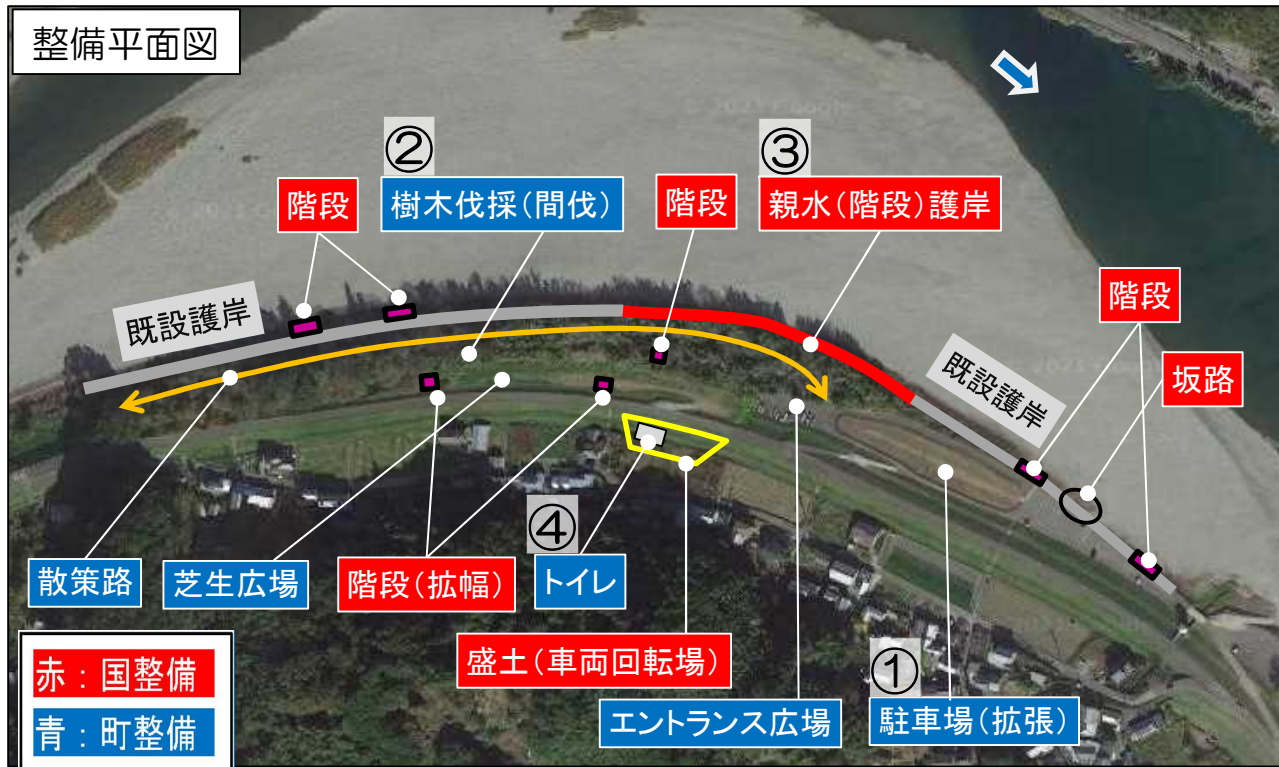
■現地視察行程



①波川地区：環境整備事業

事業の概要：関係自治体や地元住民等と連携して仁淀川の空間的特色や歴史的特色を活かした整備をはじめ、高水敷や水際
の利用ができるよう、河川整備を実施する

整備の内容：国といの町で整備を分担し、親水(階段)護岸、車輛回転場、河川敷駐車場(拡張)、広場・散策路・トイレ等を整備し、
豊かな自然環境を活かしたまちづくりを図る



写真①：駐車場を広げる(約120台増える)
写真②：樹木を間引いて快適な環境を創る。
写真③：自由に河原へ行き来できるように親水(階段)護岸を整備する。
写真④：堤防を拡幅してトイレを整備する。



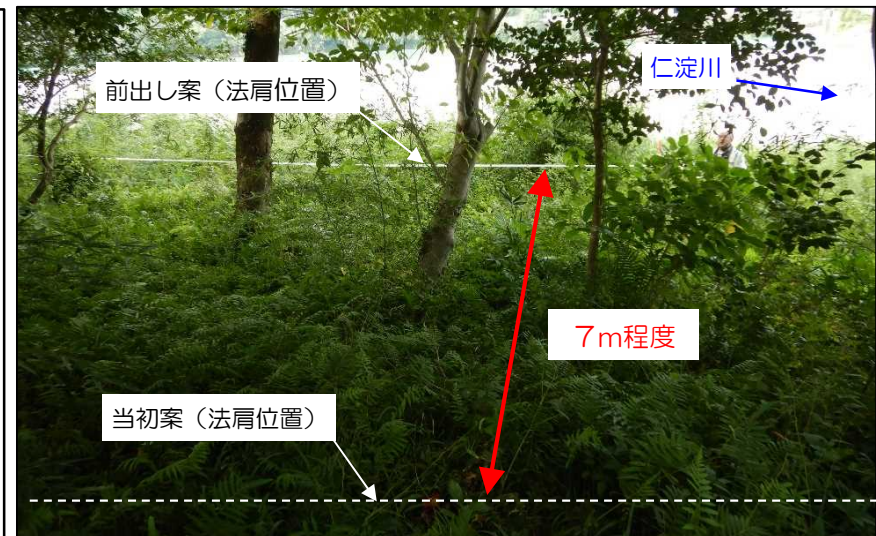
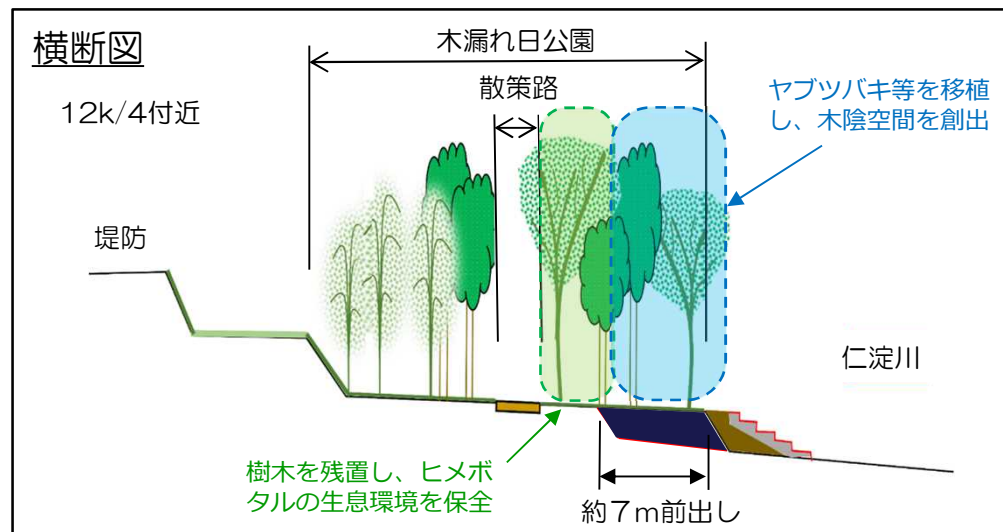
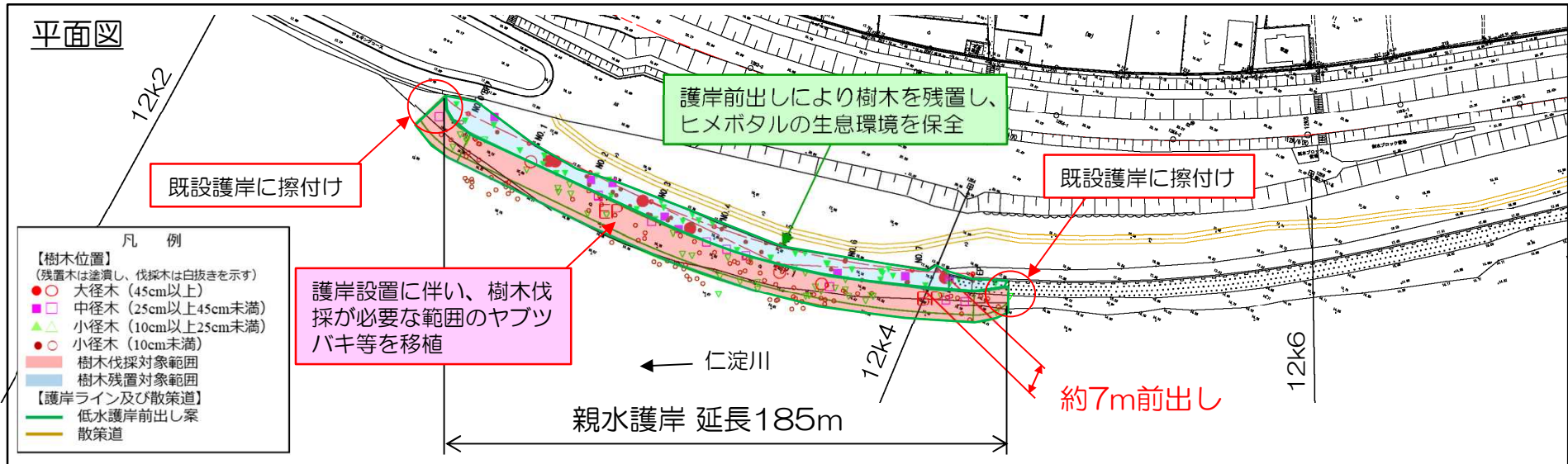
当箇所はヒメボタルの生息場所になっていることから整備にあたっては環境との調和を図る。

①波川地区:環境整備事業

○ 親水(階段)護岸計画

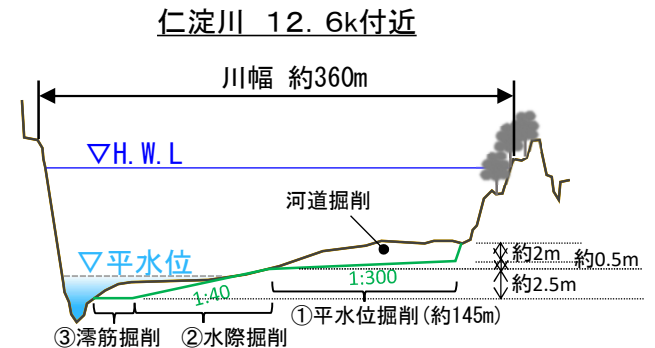
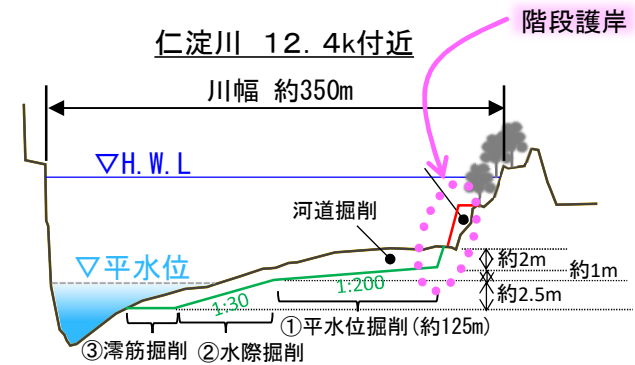
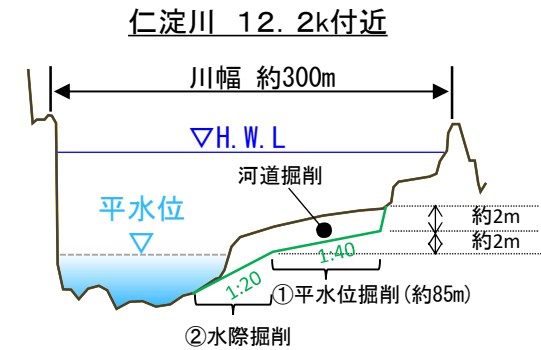
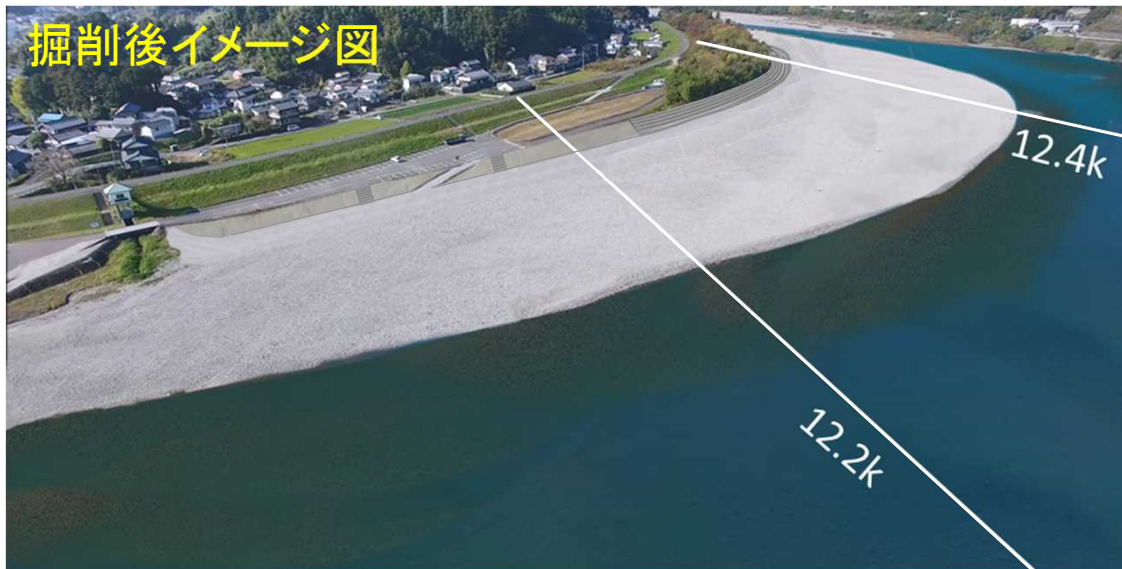
ヒメボタルの生息環境に配慮し、法肩部の樹木を極力残置できるように、低水路法線を約7m前出しする

- 護岸を前出しする事で、一部の大径木を残し、ヒメボタルの生息環境を保全する
- 盛土部に伐採範囲のヤブツバキ等を移植することで、快適な木陰空間を創出する



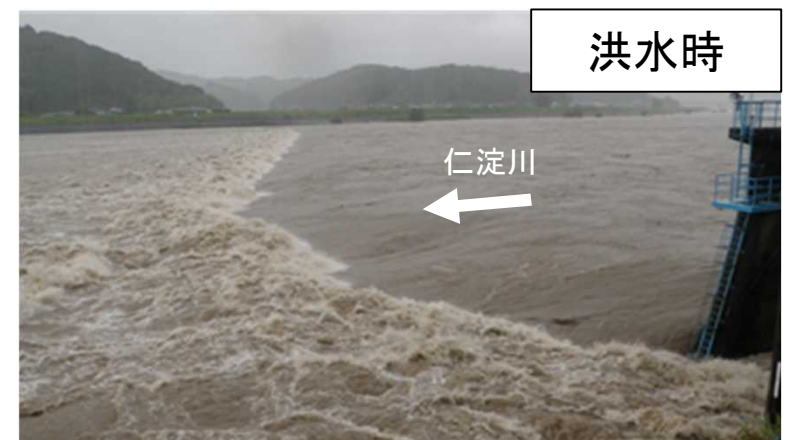
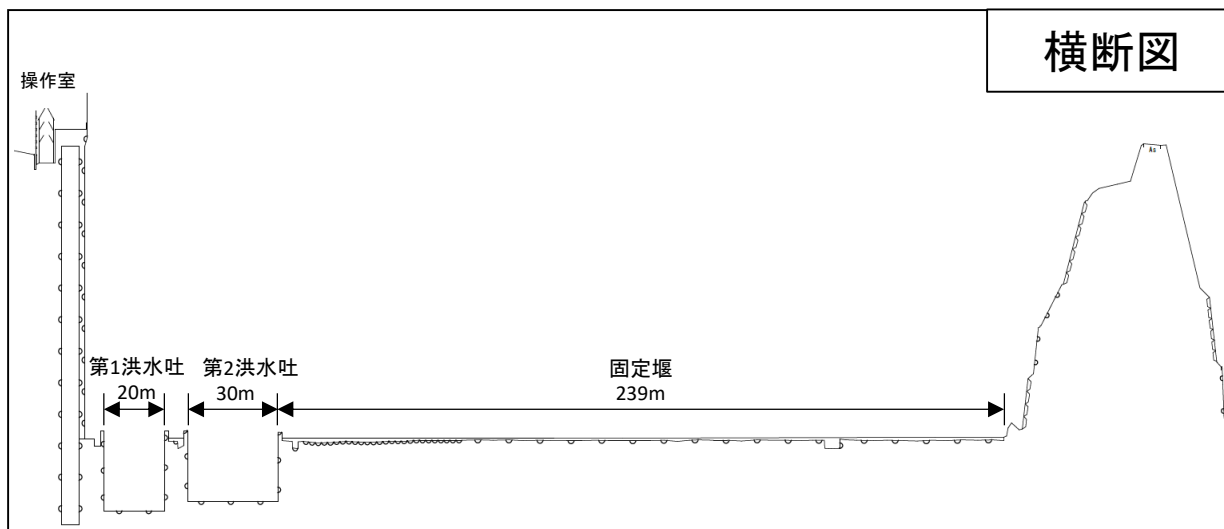
①波川地区：掘削形状

- 波川緑地公園やレキ河原等を有し河川利用が盛んな箇所である
- 気候変動を考慮した目標流量の見直しに伴い、河道掘削による流下能力の確保が必要
 - 砂州を薄く切り下げることで概ね平水位以上の高さのレキ河原が確保できる



②八田堰(右岸):八田堰の現状

- 現状の八田堰上流の流下能力は約12,000m³/sであるため、河道配分流量13,300m³/sが流下できるように、八田堰について、利水機能の保持や自然環境・景観等に配慮した構造を検討のうえ、必要な対策を実施する
- ※堰の改築を実施しない場合は、引堤や放水路等でのバイパスなどの対策が必要となる

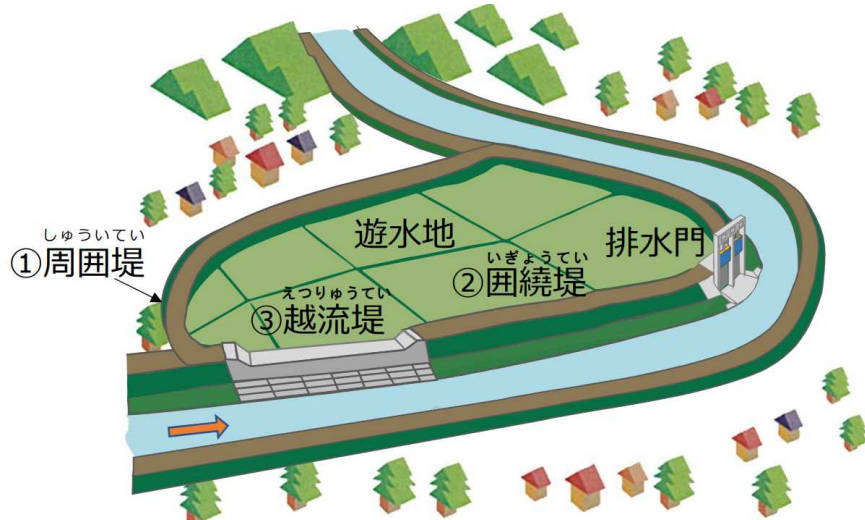


③高岡地区：河道内遊水地

- 高岡地区に遊水地を整備することで、下流の河道掘削による環境への負担を軽減させる
- 今後は、地域の経済活動や環境面への影響なども踏まえつつ、詳細な位置や諸元等を検討する

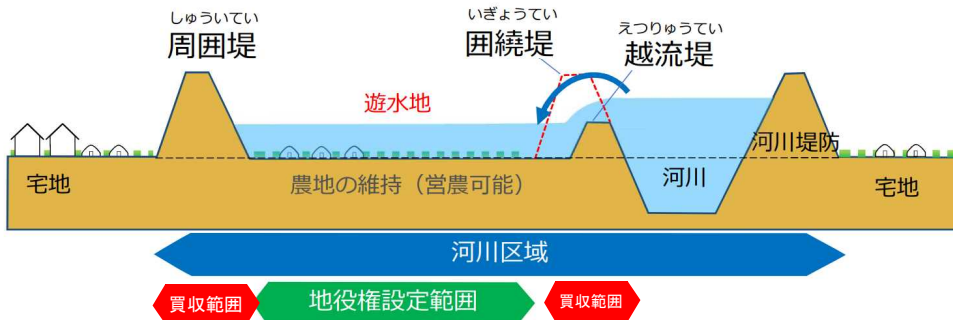
遊水地の仕組み

- ①周囲堤：遊水地の周囲を囲む堤防
- ②囲繞堤：遊水地と河川の境界の堤防
- ③越流堤：②のうち河川の水を遊水地に流す区間



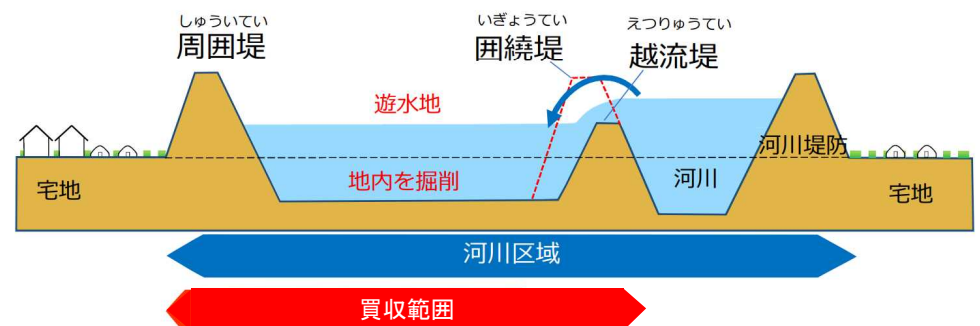
地役権補償方式

- 地役権補償方式とは、土地所有者が現在の土地利用を行いながら、さらに、河川管理者が必要な補償を実施したうえで、遊水地として使用する権利を設定する方法です。
- 地役権が設定されると、盛土などの行為が制限されます。



全面掘削方式

- 全面掘削方式とは、用地を買収し、現地盤を掘り下げて容量を確保する方法です。
- 地役権補償方式に比べ、必要となる面積が少なくなります。



④中島地区:侵食対策

○中島地区(仁淀川右岸4k/0~5k/2付近)にて、高水敷造成及び低水護岸整備を実施中



実施状況

令和5年10月末現在、非出水期から護岸着手に向け、仮締切および河川工事用道路設置



整備イメージ(断面図) A-A'



⑤用石地区：河道の掘削等

○用石地区(仁淀川右岸2k/6～3k/2付近)にて、河道掘削および樹木伐採を実施中

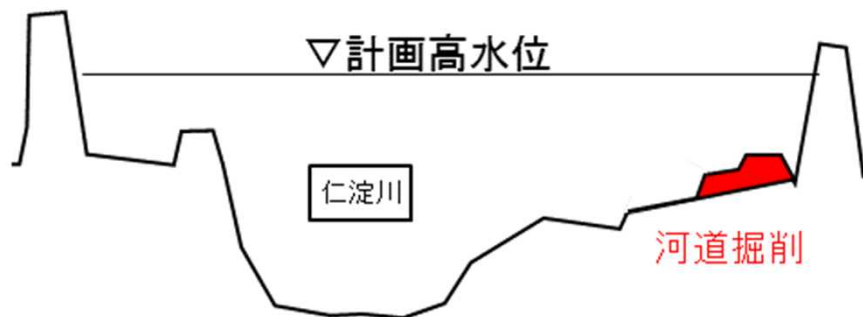


実施状況

令和5年10月末現在、河道掘削実施中であり、掘削土は、上流鶴若箇所の高水敷整備へ有効活用。砂については、高知海岸の養浜材として、新居海岸へ流用予定。

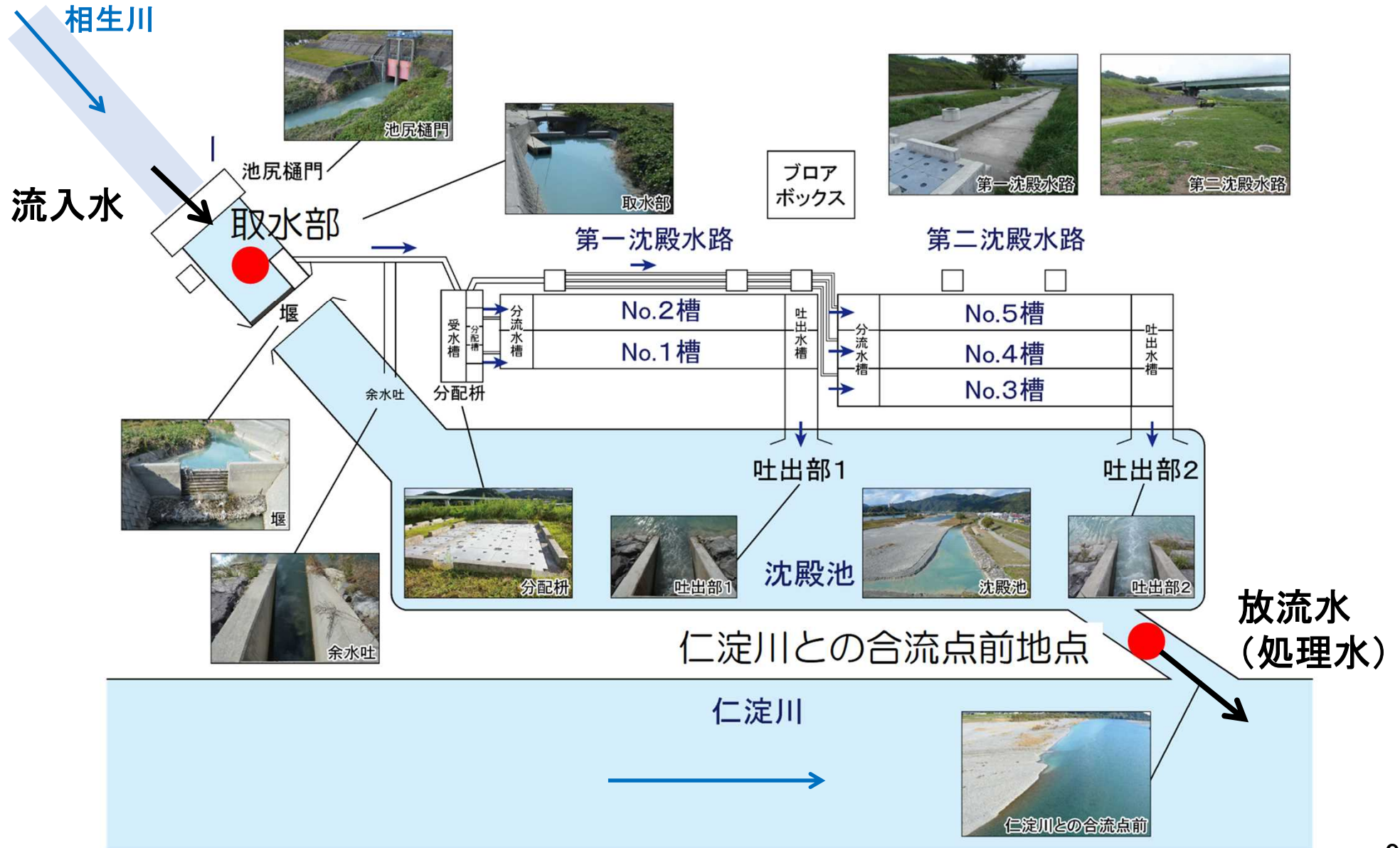


整備イメージ(断面図) A-A'



⑥伊野地区:相生川合流部の水質

水質浄化施設の概要 相生川の白濁水を沈殿水路に導水し、浮遊物を沈殿・分離させて、うわ水を放流

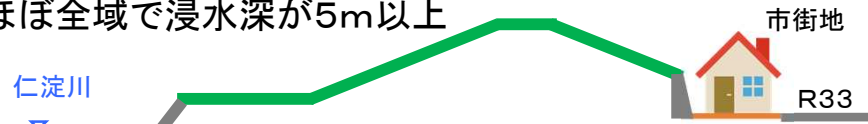


⑥伊野地区：伊野堤防の強靱化

- 仁淀川左岸に位置するいの町中心市街地は、家屋倒壊のおそれがあるエリアが広がり、浸水深もほぼ全域で5m以上(2階天井まで浸水)になることから、破堤氾濫した場合に命の危険がある人が1万人近く存在
- 安全に逃げる対策等を引き続き強化するとともに、護岸整備と高水敷拡幅による『堤防の強靱化』を進める
- 将来的には、いの町が、水害に備え仁淀川とともに発展するまちづくりを進める中で、地域住民の意見も聴きながら、まちづくりと一体の家屋移転や更なる堤防強靱化(堤防拡幅等)、堤防の利活用方策等について検討

現状

堤防侵食の危険性あり
河岸侵食や氾濫流により家屋が倒壊
ほぼ全域で浸水深が5m以上



家屋倒壊のおそれがある地区に住む人 約1,880人 + 最上階が浸水する建物に住む人 約7,950人 = 命の危険がある人 約9,830人

いの町市街地 令和4年11月撮影

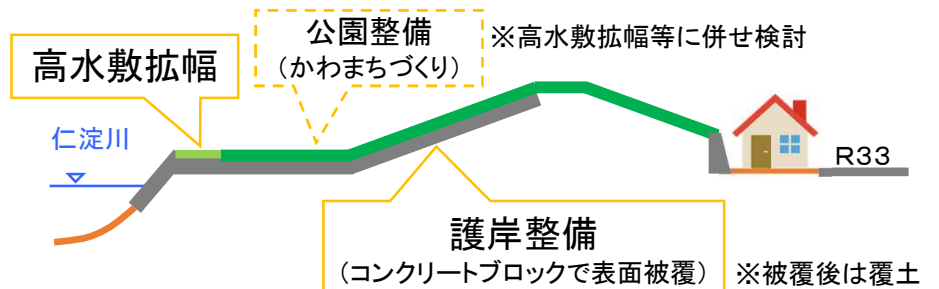


- 家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)
- 家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)

短期・中期

護岸整備、高水敷拡幅※による堤防強化

※流下能力との関係から拡幅幅は要検討



長期

まちづくりと一体で家屋移転や堤防拡幅、堤防の利活用方策を地域住民とともに検討

公園、防災拠点、民間施設占用等

堤防拡幅 等

